

岡山市の四種混合ワクチンの予防接種実施率

		初回接種			追加接種
		第1回	第2回	第3回	
岡山市 (R4年度)	対象人口	5,194	5,194	5,194	5,194
	接種人員	5,088	5,108	5,080	4,613
	実施率	98.0%	98.3%	97.8%	88.8%

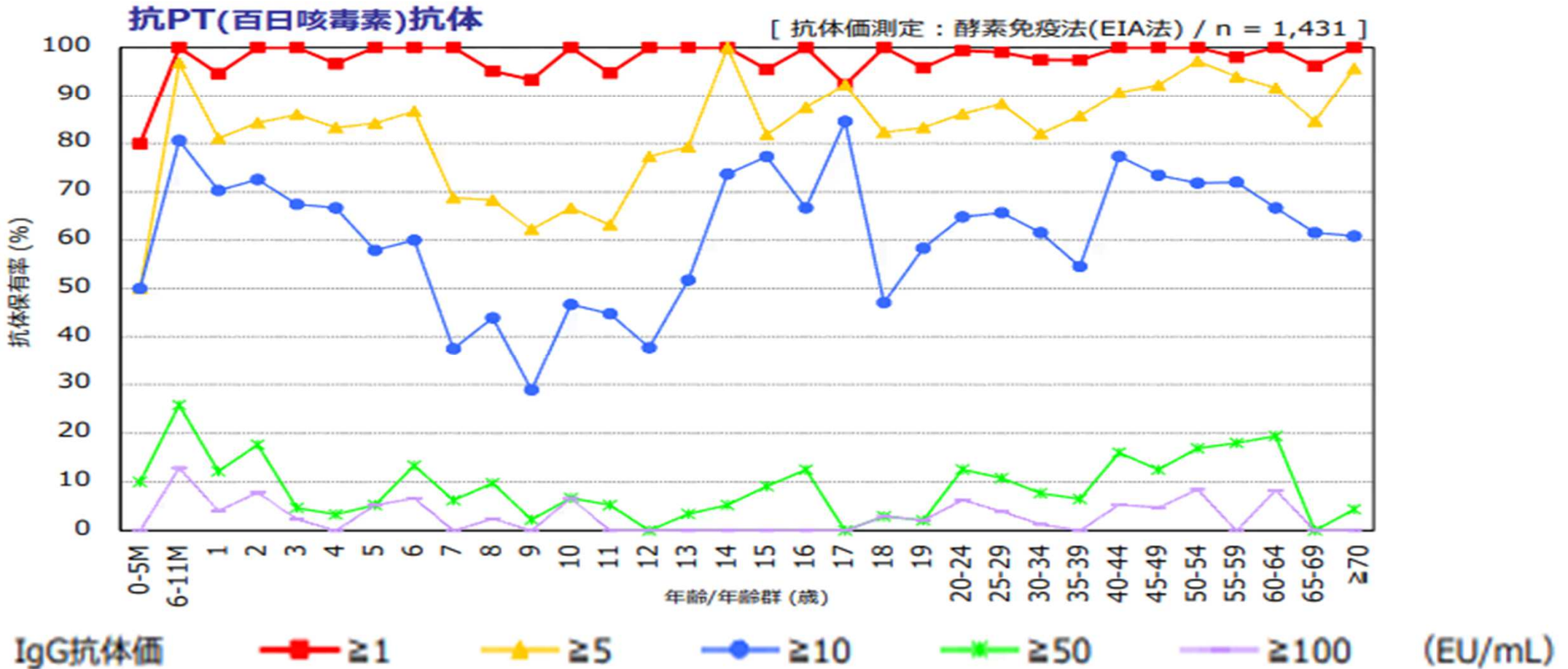
※対象人口は、R4.9月末の0歳児×9/12か月＋R4.9月末の1歳児×3/12か月で算出

**令和3年度の全国接種率は、
第1回 98.1%、第2回 98.3%、第3回 98.2%、追加接種 98.1%**
(厚生労働省HP)

年齢/年齢群別の百日咳抗体保有状況, 2018年^{※1}

～ 2018年度感染症流行予測調査より ～

※1 主に2018年7～9月に採取された血清の測定結果：2019年5月現在暫定値



出典：国立感染症研究所

<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/yosoku/2018/Seroprevalence/per2018serum.pdf>

【2018年度百日咳感受性調査実施都道府県】
北海道, 東京都, 富山県, 福井県, 愛知県, 愛媛県, 高知県

百日せきワクチンファクトシート

平成29（2017）年2月10日
厚生労働省

- 感染症流行予測調査では、5年ごとに国民の百日咳の防御抗原（以下、PT、FHA）に対する血清中のELISA抗体保有状況を調査。
- 2013年度調査では、百日咳の発症防御レベルである抗PT抗体10 EU/mL以上の保有率は、0歳後半で最も高く90%以上であった。その後、5歳頃まで漸減し、その後徐々に上昇した。
- 百日咳の基本再生産数（ R_0 、感受性者の集団において1人の患者が感染させる人数）は16~21と見積もられており、百日咳菌が狭い空間を長時間共有するような環境に侵入すると感染は容易に拡大し、家族内感染や院内感染を引き起こす。

百日咳の予防接種の歴史

- 1950年⇒予防接種法によるワクチンに定められ、単味ワクチンによって接種が開始。
- 1958年⇒法改正によりDP二種混合ワクチンが導入。
- 1968年⇒DPT 三種混合ワクチンが定期接種として導入。
- 1970年代⇒DPTワクチン、特に百日せきワクチン（全菌体ワクチン）によるとされる脳症などの重篤な副反応発生が問題となり、1975年2月に一時中止。その後患者が増加した。
- 1981年秋⇒無細胞百日咳ワクチンを含むDPTワクチンが導入。
- 2012年11月⇒DPT-IPV四種混合ワクチンが導入。
- 2023年⇒DTaP-IPV-Hib五種混合ワクチンが製造販売承認。